

空と雲と

京都の路地は奥に深いです

tou+1





例によって朝の四条大橋です。  
なかなかアート系な人が。芸大にでも行ってはるのかな。  
ここから京阪電車に乗ります。



あ、っという間に、伏見稲荷の駅につきました。  
京阪電鉄系って、アニメとのタイアップが多いです。

わたくしは阪急電車を主に使っているんですが、  
阪急の場合は、「鳳蘭駅長」になります。



ここにも修学旅行生が。

伏見稲荷は、京都の中心部からは少し南に下がった  
ところにあります。ちょっと外れにある、みたいな感じです。



あ、なんか、おいなりさんが食べたくなって来た。  
この手すりの色、ちょっとビックリしますよね。  
伏見稲荷神社に行ったらそのわけが。



これは珍しい。

普通、「総本家」とか「元祖」とかを強調しますが、  
あえてここは、「支店」がどーんと。

つまりこのお店は、「駿河屋支店」の「総本家」とであると。

ええかげんにせーよ、ほんま。



うっひゃー。ガイドさん颯爽と旗持ってますね。  
こういうの懐かしいです。  
女子のスカート長い。京都では死滅した長さやな。





---

ここも外国人観光客が多かった。  
伏見稲荷の何に関心があるのか聞いてみたいな。  
ガイドにどんなふう書いてあるんでしょうね。

わたくし、ここに来るの初めてなんです。



朱！



いやー初めて見ましたけど。  
パフェというより、たいやきからゲボってクリームが  
溢れているようにしか見えん。



またしても朱！

なーんて思いますけど、平安時代ごろは、お寺も神社も  
みんなこんな色だったので、京都の町のあちこちがこんな  
だったんですね。



キミ達、何の相談？  
なぜそこで立ち止まる。



これ毎年塗り直してるんだらうな、きっと。  
正月、もうけてるからなあ、この神社。



ここにも。伏見稻荷の祭神のイメージだそうです。



なかなかサイケデリックになってきました。  
外国人受けするのって、このあたりなのかな。

そして、あのガラガラのひも多い。  
でも、しょぼい紐。  
さすが商売の神様です。





---

当然の事ながら、狛犬ではなくてお稲荷さんなんですが。  
外国の絵本に出て来る狐と違って、しゅっとしてはるんですよね。  
お面なんかもそうやなあ。



脇に能舞台がありました。  
さすがに朱塗りではないです。



この背景の松なんですが、デザインパターンと言い切るには  
具象的なところがあり、でも写実ではない。

現実と創造の間に有るような佇まいが、  
現実の存在である観客と、夢幻の狭間にある能との  
触媒になっているように感じます。



---

後ろつかえています。



エマヌエラ丸子さん

ベアトリスさん

オッタビアさん

うーん。

日本の神様、願い事分かるんでしょうか？



見事なプロポーション。  
脚線美。  
そして、よだれかけ。





さらに階段。



日向ぼっこ？

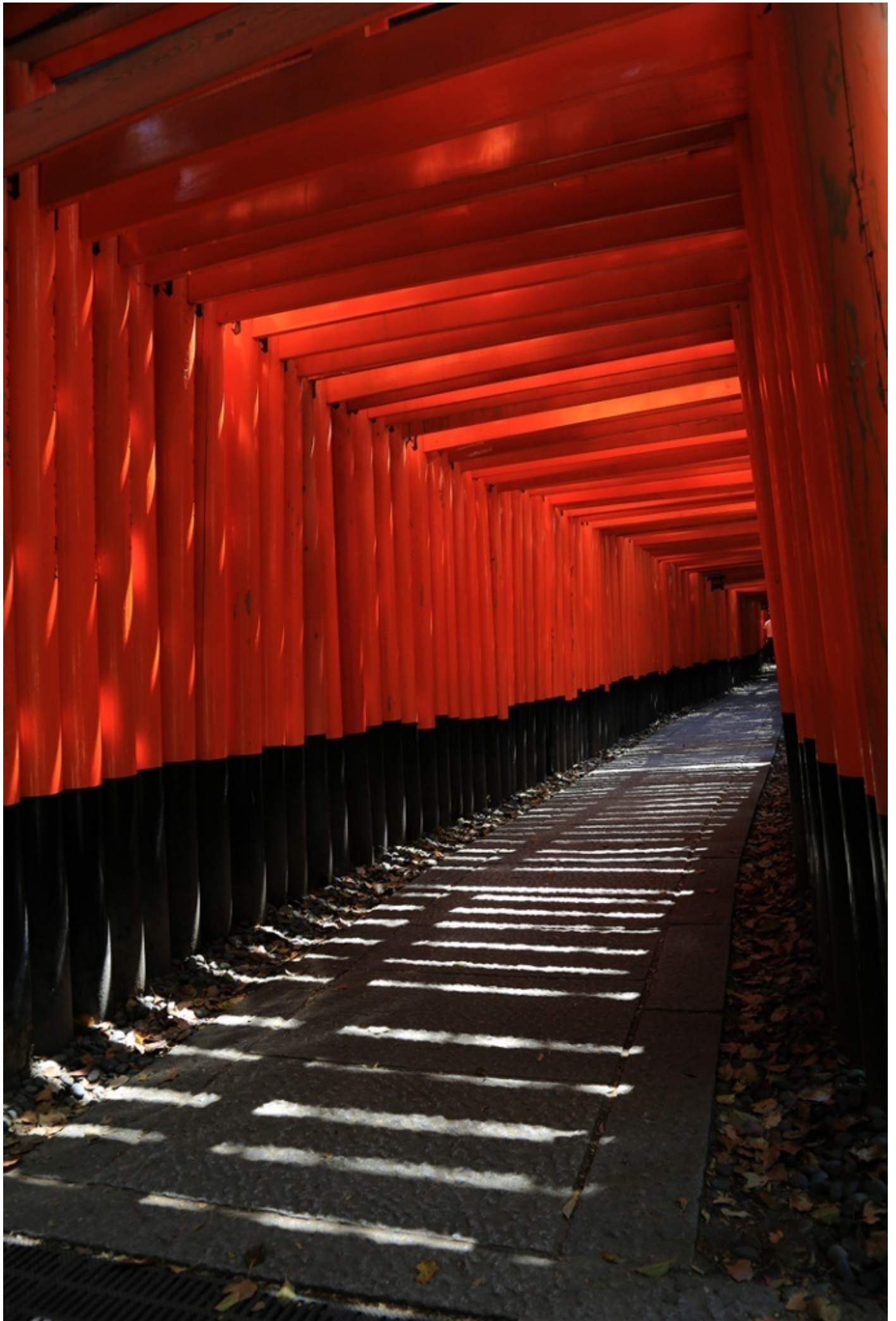
半袖のTシャツに半ズボン？

今気がついたんですが、階段降りて来る女性達に  
思い切りメンチ切られてますね。  
しかも一人ずつカメラ持ち。



---

さて、伏見稲荷といえば、鳥居。  
このあたりのはなかなか一本ずつが大きいです。







どっちに行くか迷う人が多かったですが、  
先でちゃんとつながっています。



午前中なので明るいですが、夕方とか夜とか、  
ちょっと恐くなって来るかもしれません。  
いきはよいよい、帰りは怖い、みたいな。

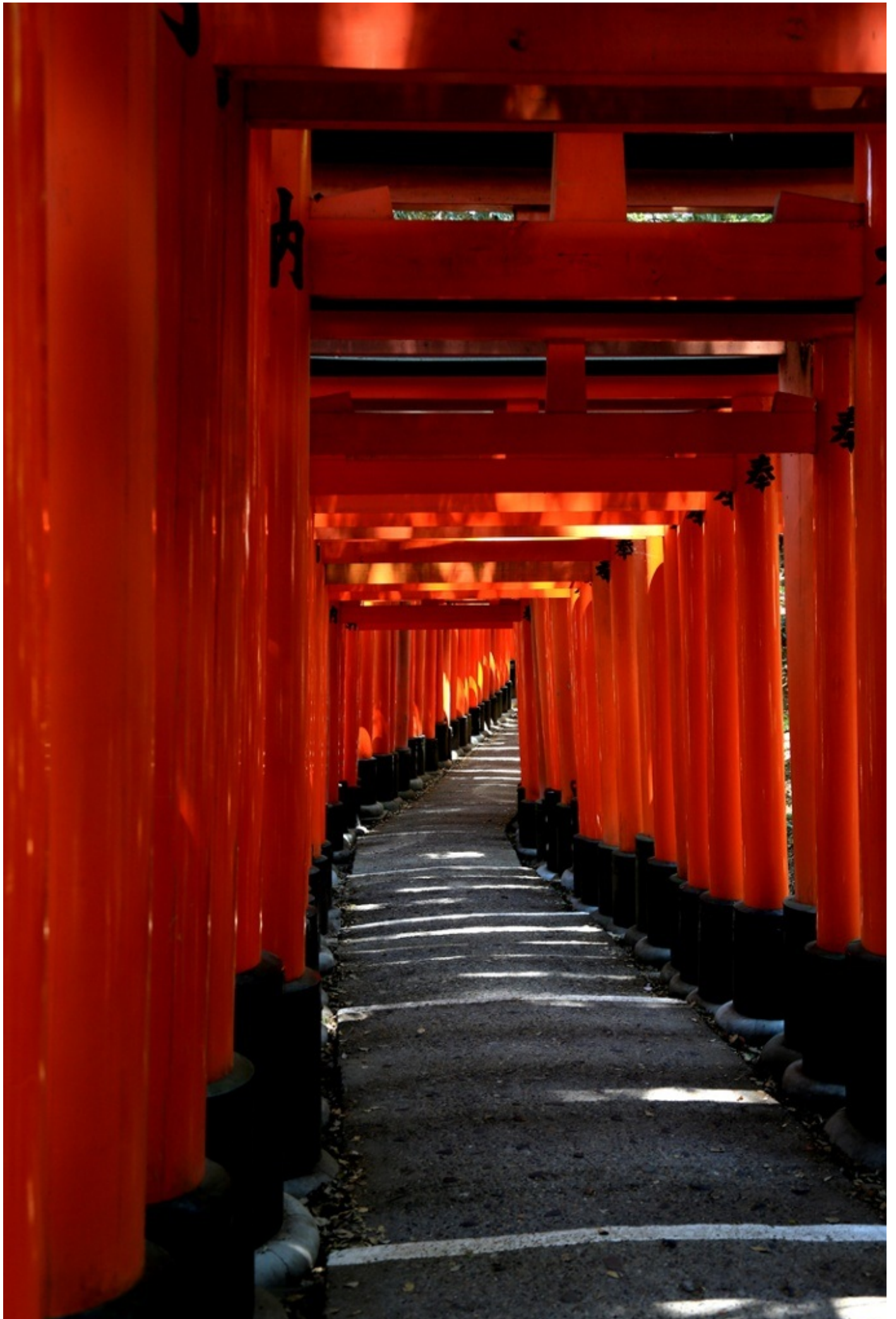
これを見ると、人が少ないようにみえますが、  
そんなことは有りません。  
かなり頑張って撮っています。





はい。驚愕の事実が。  
「境内案内図」、登山道やろ、これは。  
全行程4Km 2時間

で、あたかも山の上まで鳥居が続いているように  
描いてありますが、これは事実です。



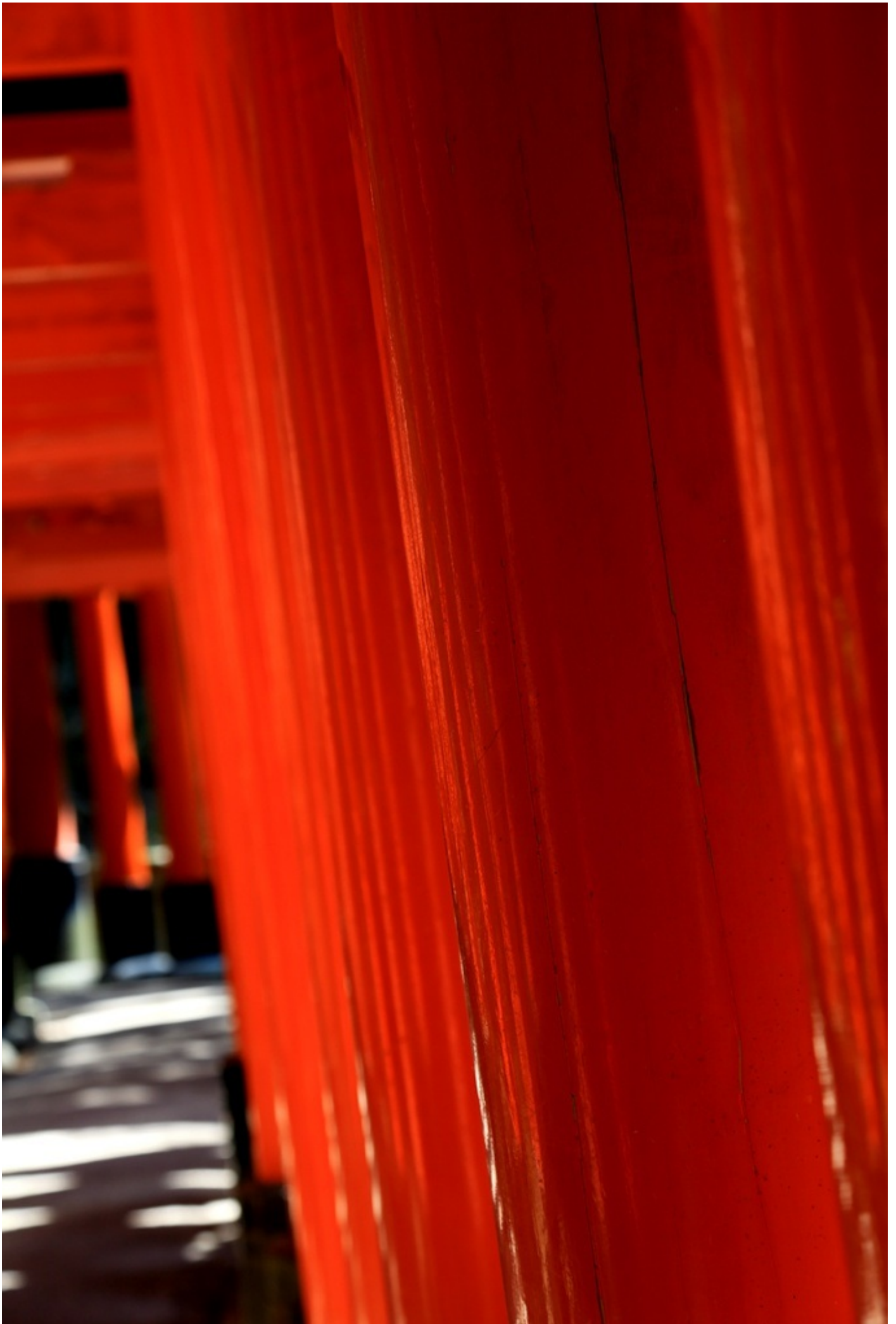
---

なるほど。先が上りになってきました。

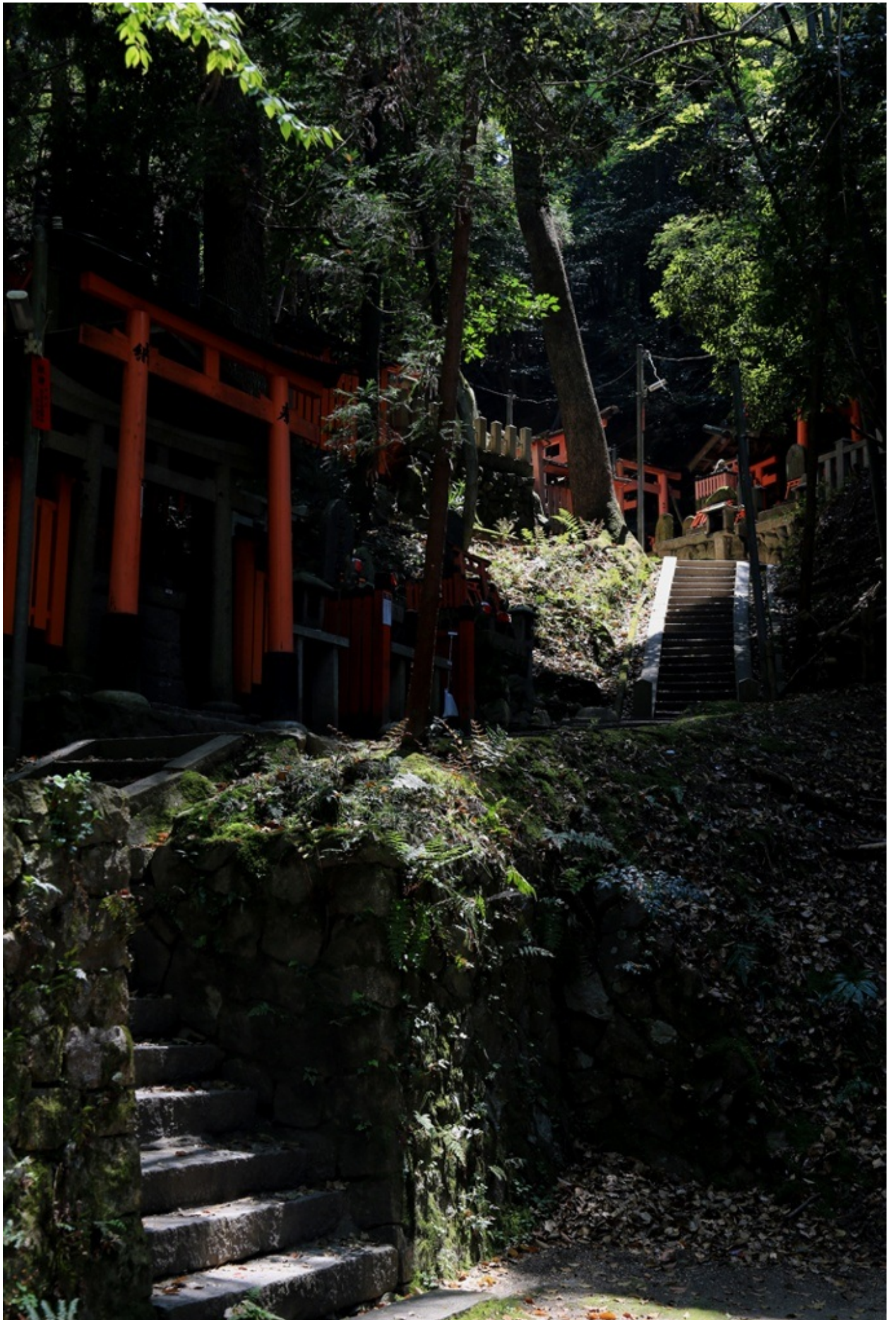




帽子が可愛い。



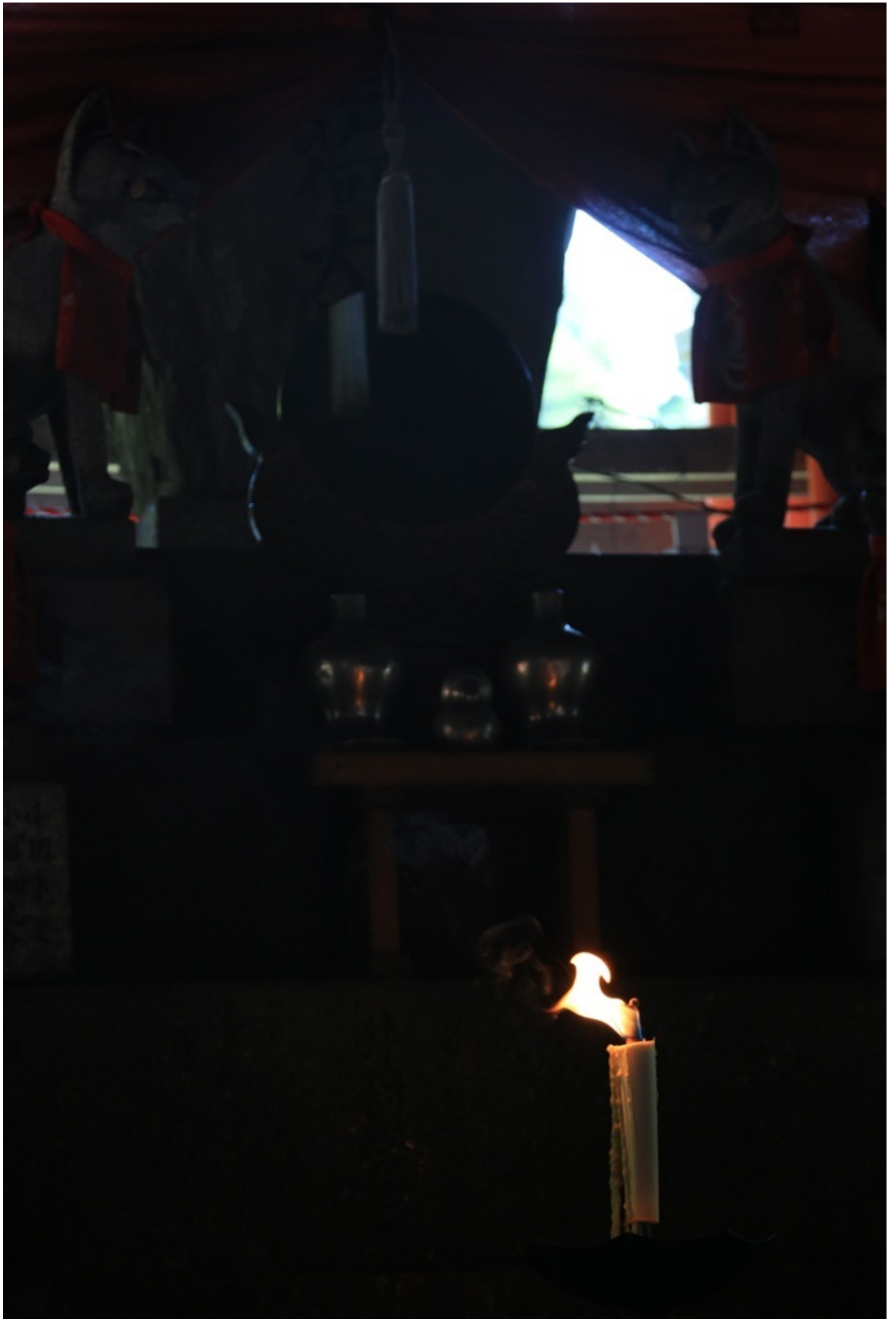






---

ところどころにこういうお社がたっています。  
が、そっちに寄っている余裕は有りません。



---

和蠟燭ですねえ。





---

これはヤバいかも。



途中途中にこういうお茶屋さんがあります。  
飲み物の他、うどんなんかの軽食も。  
ここで、暮らしてはるっぽいんですよねえ。



ここでレモンティーを購入





現在地 まだここです。めげそうです。  
そして振り向くと、こんな感じ。









---

このあたりまで来ると、人が少なくなってきます。

これ、登るんかあ、、、。





---

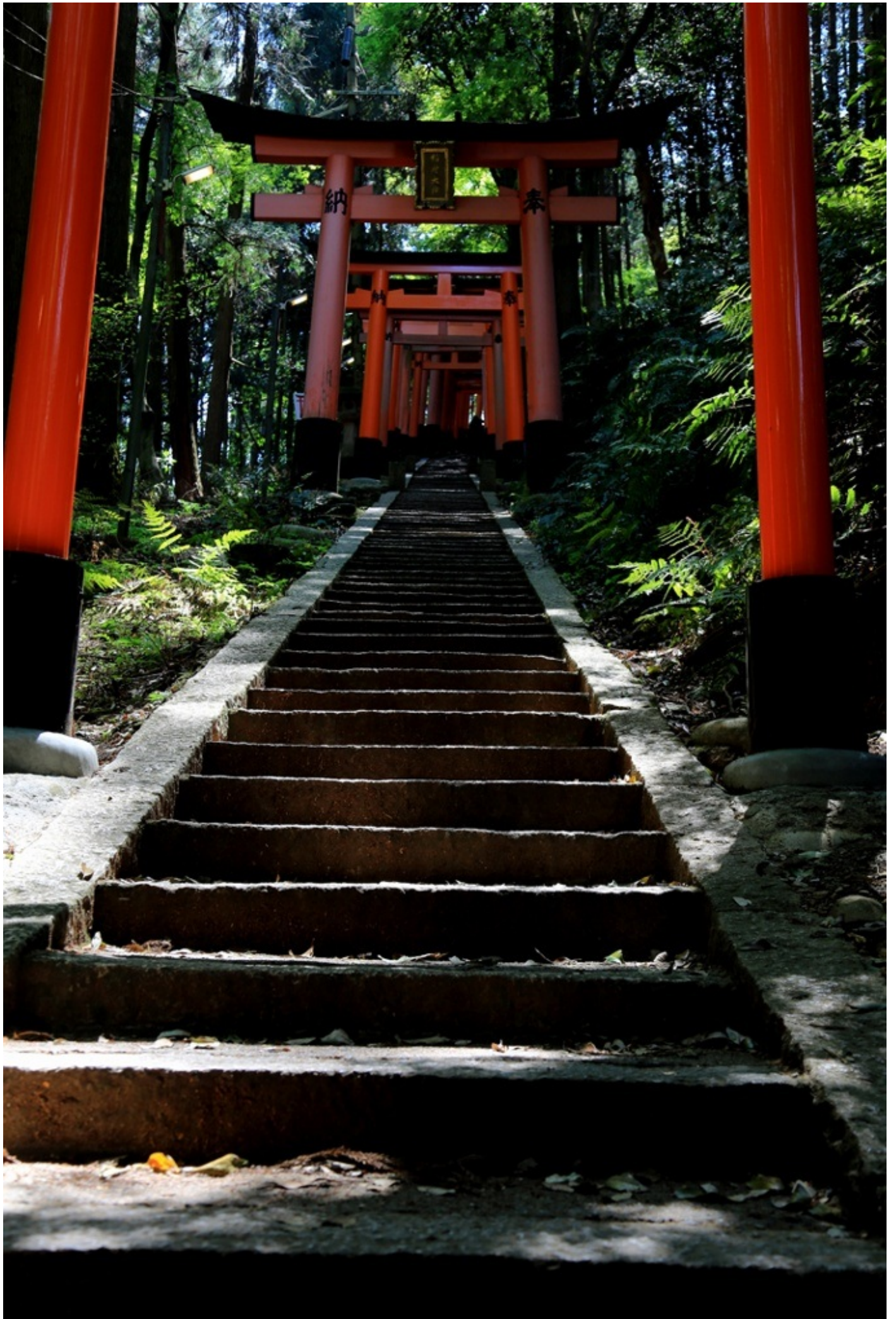
奉納というより、Oh No! っ感じ。





---

そしてまた、新たな上り階段が。  
ん、降りて来る人がいるってことは下り階段？  
なんて、くだらない事考えてるから上り？



---

嘘でしょ、、、まだ登るの。



たっけー！

しかも+初穂料。

これ、消費税ってどうなるんだろう。



ここまで走って登って来た高校生。  
キミらは偉い。青春だねー。  
しかも礼儀正しかった。



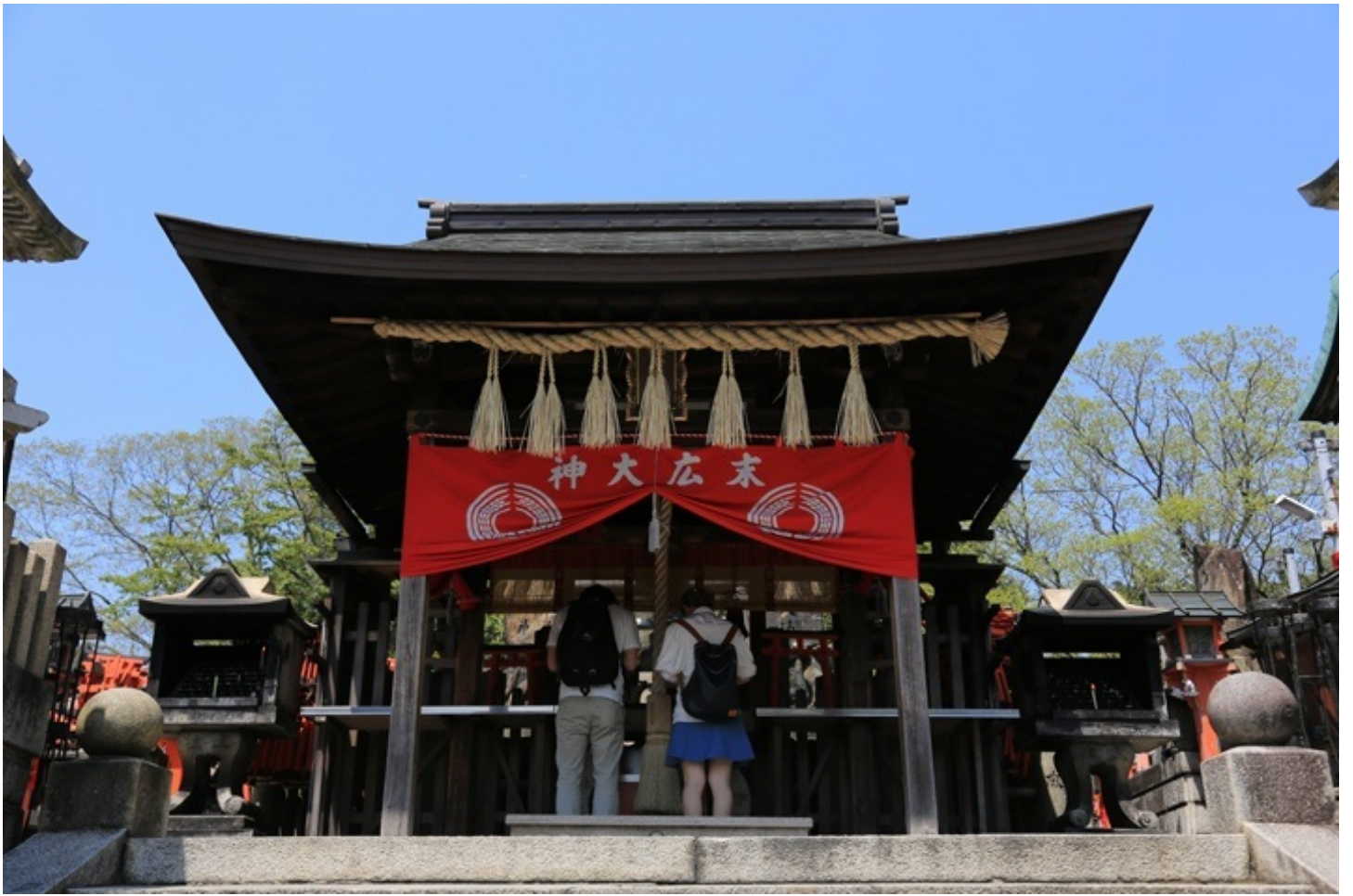
---

(V)oYo(V) ようやく頂上が o|o





やったー、頂上だー、神社だー、  
全然ありがたく無いぞー！



はいはい。お幸せに。



鳥居の裏には、お金を払った人たちのお名前が。  
でっかい鳥居には、なんとかTVなんて言うのも  
ありました。

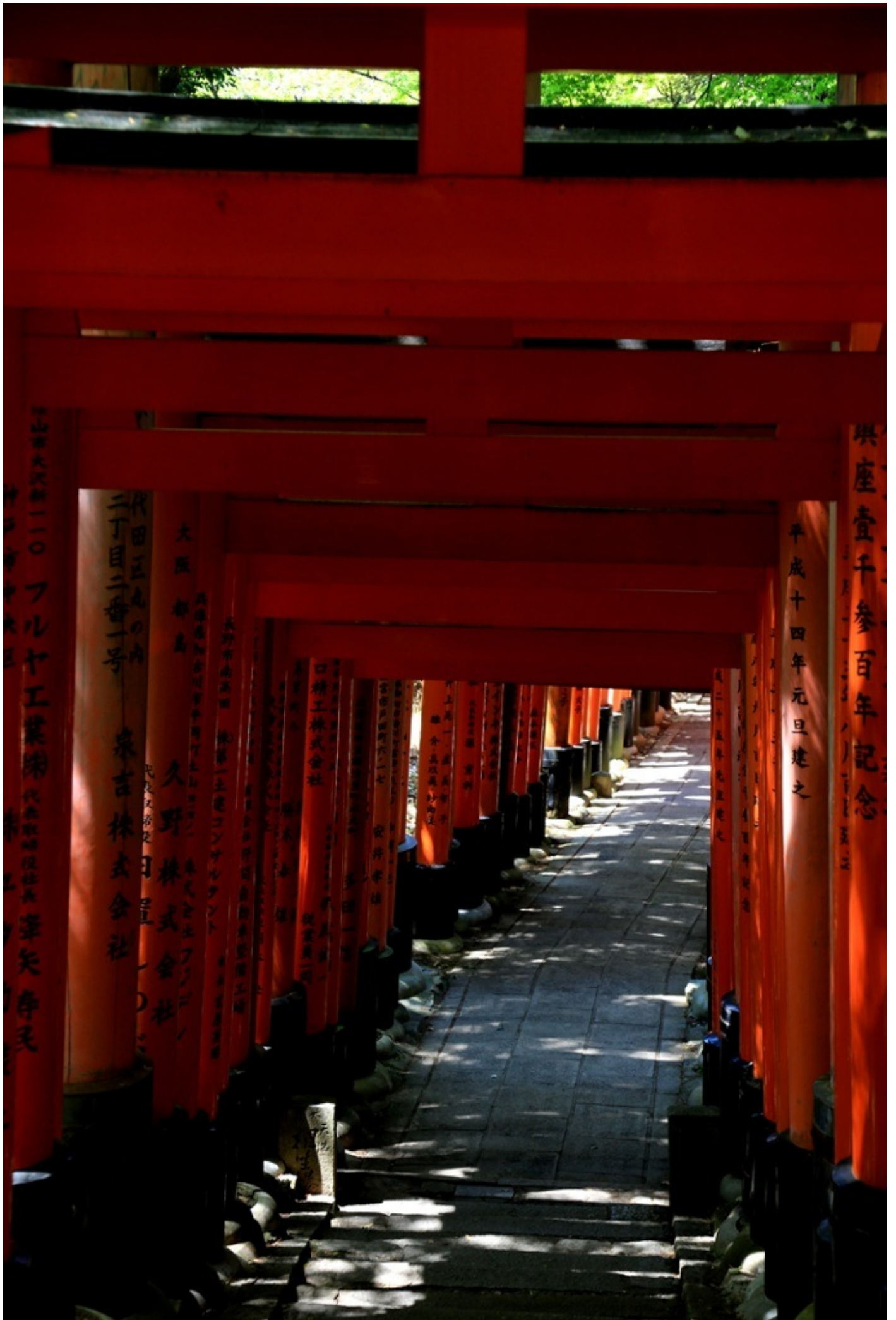


彼らは走って降りるようです。  
バスの時間とかもあるだろうから、  
のんびりはしてられないんだろうな。



こーんな、お花畑も。





興座壹千參百年記念

平成十四年元旦建之

代田区九の内の  
二丁目二番一号

泉吉株式会社

大阪 都島

久野株式会社

口精工株式会社

山崎大次郎一〇フルヤ工業株式会社  
代表取締役社長 葦矢寿夫

---

午前、午後で太陽の位置が変わるので、  
日の当たり方も変わってきます。





---

同じ場所でも少し暗く。  
反射光で照らされて、こんな感じになります。



はあ、降りたぞー。  
神職の袴の色が凄いぞー。



伏見稲荷大社のこのあたりは、氷山の一角。  
侮りがたし、伏見稲荷。



伏見稲荷、  
辛口でした。



Photo 「花水硝」 <http://p.booklog.jp/book/86821>  
「passer un après-midi 4 午後の過ごし方」 <http://p.booklog.jp/book/86636>  
Photo 「空と雪と、京都の路地は奥に深いです」 <http://p.booklog.jp/book/86313>  
「passer un après-midi 3 午後の過ごし方」 <http://p.booklog.jp/book/86112>  
Photo 「空と雪と、京都の路地は奥に深いです」 <http://p.booklog.jp/book/85799>  
「passer un après-midi 2 午後の過ごし方」 <http://p.booklog.jp/book/85513>  
Photo 「空と雪と、京都の路地は奥に深いです」 <http://p.booklog.jp/book/85209>  
「passer un après-midi 午後の過ごし方」 <http://p.booklog.jp/book/84911>  
Photo 「空と雪と、京都の路地は奥に深いです」 <http://p.booklog.jp/book/85209>  
「Travelogue ep.02 桜巡り」 <http://p.booklog.jp/book/84667>

「黄金の麦畑」  
1.Largo <http://p.booklog.jp/book/58662>  
2.Allegro molto <http://p.booklog.jp/book/83865>  
3.Adajo (連載中)

「黄昏の王国」  
イーリアス編 <http://p.booklog.jp/book/49612>  
アリシア編 <http://p.booklog.jp/book/51254>

Photo 「空と雪と、京都の路地は奥に深いです」 <http://p.booklog.jp/book/84165>  
Photo 「空と雪と、京都の路地は奥に深いです」 <http://p.booklog.jp/book/83952>  
「Travelogue ep.01」 <http://p.booklog.jp/book/83694>  
Photo 「Hina」 <http://p.booklog.jp/book/83499>  
Photo 「空と雪と、京都の路地は奥に深いです」 <http://p.booklog.jp/book/82880>  
Photo 「空と窓と、京都の路地は奥に深いです」 <http://p.booklog.jp/book/82643>  
Photo 「空と窓と、京都の路地は奥に深いです」 <http://p.booklog.jp/book/82160>  
Photo 「からくれないに」 <http://p.booklog.jp/book/81713>  
Photo 「bleu, jaune, vermillon」 <http://p.booklog.jp/book/81111>  
Photo 「H.45」 <http://p.booklog.jp/book/80229>  
Photo 「Fly me to Paris」 I～XIV  
Photo 「祇王 ことけのころも」 <http://p.booklog.jp/book/74864>  
Photo 「空と雨と6月と」 <http://p.booklog.jp/book/74060>

#### 小説

「ネガティブズ2」  
「ネガティブズ」 <http://p.booklog.jp/book/73051>

Photo 「空と僕と自転車とni」 <http://p.booklog.jp/book/72996>  
Photo 「空と僕と自転車と」 <http://p.booklog.jp/book/72092>  
Photo 「空と椿と木蓮と、そして花水木」 <http://p.booklog.jp/book/71344>  
Photo 「空と雲と、ぜんぶ鳥のいたずら」 <http://p.booklog.jp/book/70700>  
Photo 「空と雲と、ときどき春の野を歩く」 <http://p.booklog.jp/book/70137>  
Photo 「空と月と、夜桜ヲミト」 <http://p.booklog.jp/book/69415>  
Photo 「空と木と、ときどきの梅暦」 <http://p.booklog.jp/book/68722>  
Photo 「空と窓と、京都の路地は奥に深いです」 <http://p.booklog.jp/book/65536>  
Photo 「空と窓と、京都の路地は奥に深いです」 <http://p.booklog.jp/book/64153>  
Photo 「空と木とたまに月」 <http://p.booklog.jp/book/62540>  
Photo 「からくれないに」 <http://p.booklog.jp/book/61473>  
Photo 「空と雲と、ときどき月」 <http://p.booklog.jp/book/36294>  
Photo 「夢みる桜」 <http://p.booklog.jp/book/45286>

#### ー 僕カノシリーズ ー

「僕が彼女に殺された理由(わけ)」 <http://p.booklog.jp/book/31906>  
「僕と彼女の選択の事由(わけ)」 <http://p.booklog.jp/book/35498>  
「僕と彼女はそれしか答えを見つけれなかった」 <http://p.booklog.jp/book/36101>  
「僕と彼女はそれでも答えを探し続ける」 <http://p.booklog.jp/book/36617>  
「僕と彼女と複雑な関係者たち」 <http://p.booklog.jp/book/37238>  
「僕と彼女と単純な関係式」 <http://p.booklog.jp/book/37731>  
「僕と彼女と校庭で」 <http://p.booklog.jp/book/38409>  
「僕と彼女と校庭で 夏」 <http://p.booklog.jp/book/38977>  
「僕と彼女のアリア」 <http://p.booklog.jp/book/46524>  
「僕と彼女のインベンション」(次回)

#### ー その他 ー

傘がない <http://p.booklog.jp/book/69798>  
夕暮れの赤ちようちん <http://p.booklog.jp/book/42024>  
いもうと <http://p.booklog.jp/book/40794>  
サマータイム・ブルーズ <http://p.booklog.jp/book/34054>  
危険なドライブिंगマジック <http://p.booklog.jp/book/33630>  
デフラグメント <http://p.booklog.jp/book/33116>  
インフルエンス あのころの僕たち <http://p.booklog.jp/book/32752>  
花舞い、名残り雪 <http://p.booklog.jp/book/32187>

詞画集 「ただ憶得れだけを」 <http://p.booklog.jp/book/34472>  
画集 「彼と彼女の表紙画集」 <http://p.booklog.jp/book/39345>

元電

伏見人形